

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名: 葉腐病(ラージパッチ)耐病性ノシバ「チバラフワン」の特性			
[要約]「チバラフワン」は、ノシバ42系統から選抜された品種で、葉腐病(ラージパッチ)耐病性が強く、初冬期緑色保持性が良く、再生力に優れ、耐寒性がある。			
キーワード(専門区分) 育種 (研究対象) 芝草 (フリーキーワード) 葉腐病(ラージパッチ)、耐病性、初冬期緑色保持性			
実施機関名(主 査) 農業総合研究センター生産技術部花き緑化研究室 (協力機関) 独立行政法人 東北農業研究センター (実施期間) 1991年度～2000年度			

[目的及び背景]

千葉県では、無農薬管理下で維持管理可能な芝草の育成を目的として、日本芝(ノシバ、コウライシバ)の品種開発に取り組んでいる。中でも、ノシバ、コウライシバに発生する葉腐病(ラージパッチ)は、ゴルフ場において最も重要な病害となっている。そこで、ノシバ在来系統の中からラージパッチに耐病性のある品種を育成する。

[成果内容]

(1) 形態

「チバラフワン」の葉身長は、「メイヤー」、「みやこ」よりやや長い、葉身幅、ほふく茎の太さは、「メイヤー」、「みやこ」とほぼ同じで、形態はノシバの形態を示す(第1表)。

(2) ラージパッチ耐病性

発病程度を1995年から3カ年に渡り継続して調査した結果、「チバラフワン」の発病程度はいずれの調査年においても他の系統に比べて低く、ラージパッチに対する耐病性が示された(第1図)。

(3) 初冬季緑色保持性

生育期の「チバラフワン」の葉の色は、若干淡い緑色であり、低温に遭遇するとわずかに紅葉する。秋以降の緑度の低下は、他の系統に比べ緩やかで、初冬期の緑色保持性が高いことが示された(第2図)。

(4) 再生力

生育期間中の再生力を被覆度を指標として検討した結果、「チバラフワン」の被覆度は、他の系統及び品種に比べて高く推移し、ほふく茎の伸長速度が速い品種であった(第3図)。

(5) 耐寒性

越冬時の地面の凍結や春の萌芽時の晩霜に遭遇しても、その後正常な生育をすることが求められることから、「チバラフワン」を山梨県北巨摩郡にあるゴルフ場のラフ(標高 800m)に定植し、耐寒性試験を行ったところ、春の萌芽が正常に認められ、耐寒性に問題がないことが確認された(第4図)。

[留意事項]

「チバラフワン」は、生育が旺盛なノシバであるので、5月から7月に毎月1回、窒素を1㎡あたり成分で3～4g施用することが望ましい。

[普及対象地域]

ゴルフ場、公園

[行政上の措置]

2001年3月から「チバラフワン」の普及推進の一環として、千葉県芝草管理技術者会の協力を得て、6ゴルフ場のラフで各1000㎡の展示を行っている。

[普及状況]

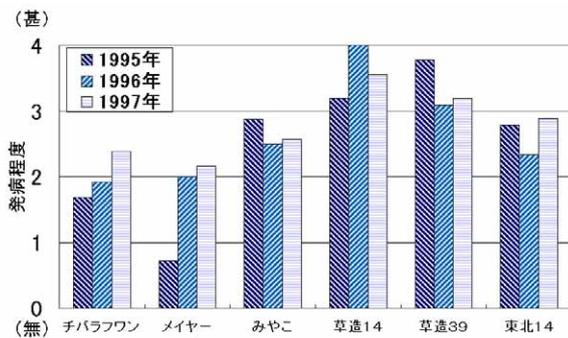
県内芝生産業者に許諾を行った。

[成果の概要]

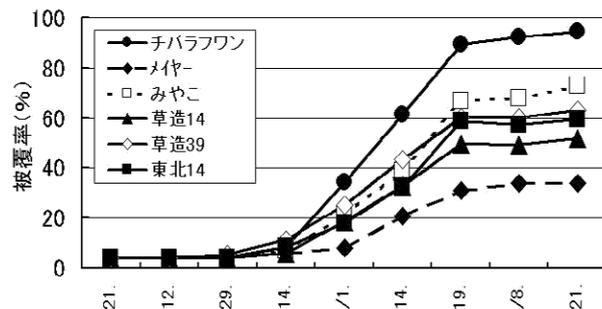
第1表 葉身とほふく茎の形質

品種名	葉身長 (cm)	葉身幅 (mm)	ほふく茎の太さ (mm)	節間長 (cm)	ほふく茎の密度
チバラフワン	10.38	5.05	1.77	3.66	3
メイヤー	6.63	4.05	1.70	1.91	4
みやこ	8.17	4.83	1.94	3.10	3

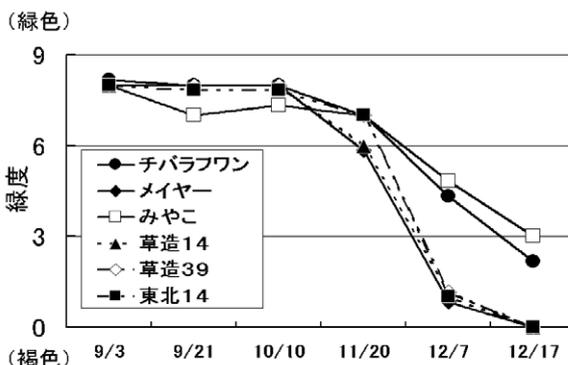
注) ほふく茎の密度:1=極粗、9=極密(目視評価)



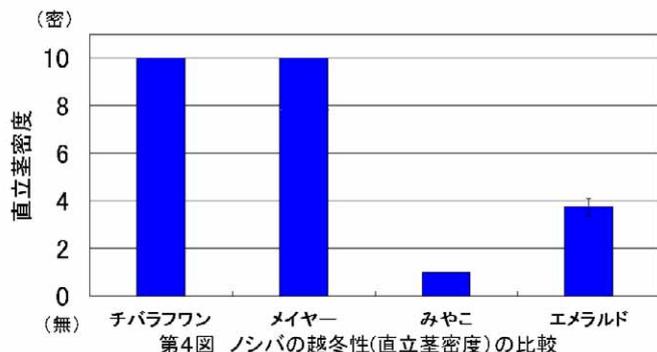
注) 各データの数値は1995年(10月8日、20日、11月10日)、1996年(10月10日、25日)、1997年(10月7日、23日)の平均値で示した。



第2図 ノシバの被覆率の推移(1995年)



第3図 ノシバの緑度の推移(1996年)



第4図 ノシバの越冬性(直立茎密度)の比較 (1999年5月8日)

[発表及び関連文献]

加藤正広・梅本清作・青木孝一: ノシバ主要品種及び系統の葉腐病(ラージパッチ)耐病性, 芝草研究大会誌 第25号:94-95.(1996)

加藤正広: 耐病性ノシバ「愛媛41-5」の育成, THE GREEN CHALLENGE Vol.11, 千葉県ゴルフ場等無農薬化推進連絡協議会:2-5. (2001)